きたらより良いです。真摯に感謝を示す人は、きっと自然に周りから助けてもらえると思います。そして、お礼をするだけでなく人を助けられる努力をしましょう。「ありがとう」を相手に届けられたら、春のひだまりのように温かく、同時にすっきりした気持ちになります。感謝を受けとる側も嬉しいです。人の力になれたら、気持ちいいですし、助けてもらった人も心が和みます。

みんなに人を助けることと、しっかり感謝を伝えることが広がれば、社会は明るく温かく、暮らしやすくなると私は考えます。母のように、人が困っている時に寄りそえる人間になりたいです。それから、お母さんへ、いつもありがとう。

サラちゃん

特別賞

バス停の掃除

鹿ノ台小学校　五年　奥谷　隼翔

僕はあるバス停の掃除をお父さんと一緒にボランティア活動で掃除をしました。ボランティア活動の掃除では約50人ほどの人が来ていてとても人がいました。僕は掃除をしているときに煙草の吸殻やレジ袋、お菓子のゴミまで捨てられているのを発見しました。街中のいたるとことにゴミがポイ捨てされていてこのポイ捨てはおそらく誰かが「ちょっとだけならいいか」と少しも罪悪感がなく、わざと捨てたものだと思いながら帰りました。家に帰ってゴミを捨てるとどんな事が起きるのか考えたりパソコンを使って調べてみました。そして僕は調べ終えそれぞれどんなゴミがどんなことを引き起こすのかノートにまとめてみました。煙草の吸殻は近くの木や草に引火する恐れがありとても危険で、レジ袋は過去に人がふんでコケてしまい怪我をしたというのがニュースでやっていました。その他にもあまり害はありませんがお菓子のゴミや食べ物が捨てられていると、匂いが臭くなったり嫌な虫が集まってきてしまいます。僕は掃除をして街の危険性をちょっとでもさげたんだなと思いなんだかとてもいい気持ちになりこれからも掃除をどんどんしていこうと心に決めました。最初はジュースやお菓子がもらえるからいつも行っていましたが、ゴミのことを調べてから街の危険性をさげるために掃除に行くようになりました。来週にまた掃除があるという情報が入ったのですぐに掃除に行きました。バス停についてそこで見た光景は言葉も出ませんでした。なんと今までとゴミの量が2倍以上になっていたからです。それを見た瞬間心の底から怒りと悲しみがこみ上げてきて、すぐに一緒に掃除をしようと約束していた友達とせっせと掃除をしました。そしてやっと掃除をやり終えるとなんだかいつもより2倍以上心が軽くなりました。次の日僕は暇になったのでバス停ではなく公園の掃除を親友と掃除しに行きました。相変わらずたくさんポイ捨てされていて今回はトングと

大きめの袋を持っていきました。掃除を終わらせると公園の近くに住んでいる人が来てありがとうと感謝されてとても嬉しくなりました。ある時掃除をしていると珍しいゴミが落ちていてよく見ると電池でした。一度拾って帰って電池がどんなことを引き起こすのか調べてみました。電池は中の液体が漏れていると引火や変な匂いを引き起こして気分を悪くすると書いてありました。僕はあのとき電池を拾って良かったと思いました。僕はこれからちょっとでも街の危険性が下がるようにこれからは時間があればなるべく掃除をして街を救おうと心の底で深く誓いました。

「思いやり」を循環させる

生駒中学校　二年　木村　悠人

私の身の周りでは大きな事件や、非常に危険な行為をしている人をあまり見かけないように感じます。そのため、私自身毎日の学校生活や登下校、日常の中にも不安を持つことなく、安心して生活を送ることができています。

では、なぜこの地域の安全が保たれているのでしょうか。

それは、人々の優しさや思いやりにあると私は思っています。

小さな時から、私は地域の人の思いやりを多く感じてきました。その中でも印象に残っているものの一つが、小学校時代の登下校時のことです。

私の小学校への通学路には、一本大きな横断歩道があり、その分道路も大きく、交通量も少なくありませんでした。

そして、すこし目線をずらすと別の方向からも道路がつづいており、そこはいかにも事故が発生しそうな交差点でした。

そんな場所でも、低学年の男の子達は遊びに集中してしまい、時折、本当に「危ない！」と言いかけた場面もありました。

私は何度か注意をしたことがありますが、やはり大人に注意をされるのと、子供にされるのとでは違うのでしょう。あまり話を聞いてくれず、遊びを続けてしまいました。

その時、一緒に信号を待っていた大人の人が、その子達に気づき、私は注意してくれることを期待したのですが、その人は何も見なかったかのように目をそらし、歩いていってしまいました。

私は、このような状態ではいつか事故が起こってしまうのではないかという心配に加え、この対応が社会では普通なのかと、どこか残念な気持ちになりました。

そんな日が続いていたある日、朝その横断歩道に行くと、緑の服を着たおじさんが児童の様子を見てくれていました。そして、危険なことをしている子供に優しく注意をしていました。

それからは男の子達が危険なことをすることもなくなり、驚きました。さらに、そのおじさんは毎日そこについてくれるようになり、私がどれだけ早起きして向かっても、おじさんは必ずそこにいました。

ある時、おじさんに、

「ボランティアでここを見て下さっているのですか。」

と聞くと、

「そうだよ。」
という答えが返ってきました。
私は、毎日欠かさずここを見てくれていることが思いやりによるものだと知り、感動しました。
そして、卒業式の日、その横断歩道を通学路として使う最後の日に、友達とお礼をしに行くと、
「感謝をしに来てくれるその思いやりが、私の元気の源だよ。」
と言ってくださり、自分達のこのお礼も思いやりの一つなのだなと思いました。
ここでは、思いやりによって、事故を防ぐことができています。それは、犯罪や非行においても同じことだと私は思います。
しかし、その思いやりが一方的なものであれば、それは成立しません。
人と人との間で思いやりを循環させることで、初めて明るい社会ができるのではないのでしょうか。

地域みんなで守られる安全を

光明中学校　三年　阪上　音葉

私たちが暮らす地域では、犯罪を防ぐために警察の方が通学路に立ってくれたり、地域の見守り隊の方たちが毎朝登校の時間に防犯パトロールをしてくれたり、と様々な防犯の取り組みが行われています。
私が小学生の頃、私の家から小学校までは遠い為、本当はバス通学だったのですが、車酔いがひどい私はバスではなく徒歩で毎日一時間以上かけて通学していました。
学校までの道中、信号のない横断歩道や死角になる曲がり角、人通りの少ない場所やすごく細い田んぼ道など子どもの私たちにとってはとても危険な場所がたくさんありました。
特に体が小さい低学年の頃は歩いて行くだけで精一杯で、周りの危険に気付くことが出来ず道を渡ろうとしてしまったり、帰り道に友達と別れてから暗い道を一人で帰ることもあり、少し怖いなぁと思いながら通学していました。
そんな時、見守り隊の方達が毎日「おはよう。」「元気か？」「車が来てるから、まだ渡ったらあかんよ。」などと私たちの安全をいつも守ってくれていました。
最初の頃は恥ずかしくて挨拶もあまりできなかった私にも毎日毎日「おはよう！」「気をつけてな！」「いってらっしゃい！」と変わらず声を掛け続けてくれる見守り隊のおじさん達に徐々に「おはようございます！」「いってきます。」とこちらからも挨拶や話をすることができるようになりました。
大雨の日や夏のすごく暑い日などは「大丈夫？」「しんどくない？」「今日は元気ないなぁ。どうしたん。」などと私たち一人一人のことを本当によく見てくださっていていつも心配してくれたり優しい言葉を掛けてもらえたことがすごく嬉しかったのをよく覚えています。
また私は、小学生の頃に、学校の下校途中や習い事に一人で行く時など、知らない男の人に声を掛けられたり車でついて来られたり写真を撮られたりしたことがあり、とても怖い体験を何度もしました。その為、誰もいな

い道を歩いたり、友達と別れた後一人で帰るような時に、見守り隊の黄緑色の服を着たおじさんやおばさんの姿を見るとすごくホッとして安心できました。

また登校中に怪我をしたり、急に鼻血が出てしまったことがあり、その時にもすぐに気付いて声を掛けてくださり、家が近くだからと、バンソウコウを持ってきて手当てをして下さったりと本当にお世話になりました。

ここ何年かはコロナウイルス等の影響で人と人との関わりが少なくなってきていた中でも毎日笑顔で見守って下さる見守り隊の方達のおかげで私たちは毎日、犯罪や事故に巻き込まれることなく安心して安全に登下校することができています。

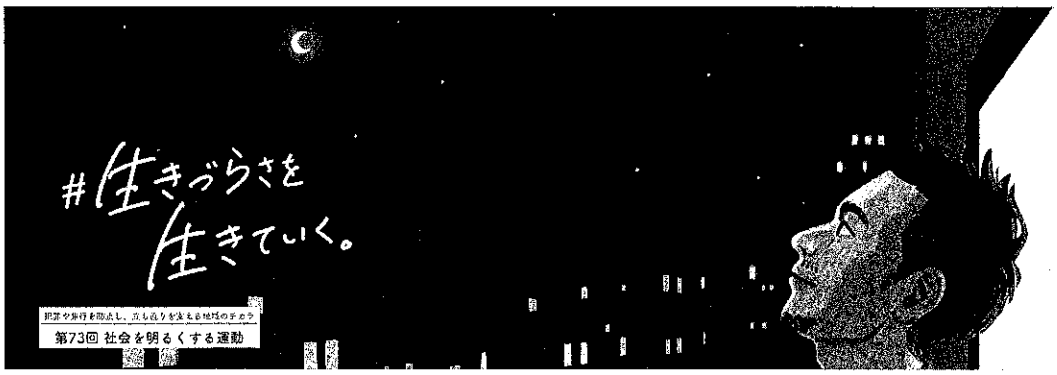
そして小学校の頃とは違い、自転車での通学路も変わってしまった中学生活ですが、つい最近、塾へ行く為に小学校の時の通学路を歩いていると懐かしい見守り隊のおじさんに出会いました。するとおじさんの方から「〇〇ちゃん久しぶり！」「〇〇ちゃん、元気に学校行ってる？」といつもの笑顔で話しかけて下さったのです。

もう私たちのことなんて忘れているだろうな、と思っていたのに私や友達の名前もしっかり覚えて下さっていて嬉しかったです。また、見守り隊のおじさんも元気でいて下さったことも本当に嬉しかったです。

ただ、私には少し気になっていることがあります。それは見守りをして下さっている方達のほとんどが高齢の方だということです。

いつも私たちの為に防犯パトロールをして下さっているこの方達が体調を崩したりしてしまうと地域の大切な防犯活動を行う人がいなくなってしまうのではないと思うのです。

そうなると子ども達の安全が確保されなくなると思うし、子ども達への犯罪が増えてしまうことになるかもしれないと感じました。

そうなることを防ぐ為に、もっと若い大人や地域全体の協力が必要になってくると私は思います。

私も含め、若い人たちがもっと積極的に防犯への意識を持ち、防犯パトロールなどにも参加し、防犯活動の大切さや内容を知り、今まで活動してくれていた人たちに代わって活動を続けていくことが大切なのではないかと思います。